

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771500186		
法人名	医療法人社団 同朋会		
事業所名	グループホーム あじさい高浜 ユニット1		
所在地	石川県羽咋郡志賀町高浜ク12-14		
自己評価作成日	平成23年1月8日	評価結果市町村受理日	平成23年3月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do">https://www5.pref.ishikawa.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	平成23年1月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に『その人らしい暮らし』を掲げ、行動指針「思う気持ち果たす役割」を念頭に、住み慣れた地域で「その人らしく」生活できるよう、本人の気持ちや状況を常に考え思いを大切に日々生活支援に取り組んでいます。ボランティアや実習生を受け入れる、認知症についてお話をする機会を持つ等、積極的に地域と交流できるよう努めています。気軽に散歩に出かけたり、知人の方を訪ねたり、欲しい物を買に行く等、利用者様の思いを叶えと共に、ゆったり感を持った生活を心掛けています。法人母体の診療所医師、介護老人保健施設との連携も整備され、総合的な地域ケアの推進に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい暮らし」は、より利用者本位に、もっと地域密着へと平成21年度中に見直した新しい理念である。開設以来7年余、ホームは実直に地域高齢者と向き合い多くの経験を積み重ね、かつ、医療機関を母体とした老人保健施設等を有する法人グループとしても、その安心と信用をしっかりと地元へ根付かせてきた。しかし、例えば活動状況の写真入り「ホームだより」を地域に配布しようにも、「入居していることを人に知られたくない。」等をはじめ、この地域特有の難渋が諸々あるのも現実である。利用者一人ひとりが「今何を望んでいるのか。」の原点に立ち返り、その具現化の為に、施設や職員の都合を排除し、改善できる事と今は変えられないけれどより近づけられる事を棲み分けし、この土地に合うこれからのホームとしての有り様を求め、ホームは今、新たな進化に取り組もうとしている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念『その人らしい暮らし』を掲示し、住み慣れた地域で『その人らしく』生活できるように、本人の気持ちや状況を考えながら日々の生活支援に努めています。仕事に入るとき職員で確認している	理念はH21年度中に見直し『その人らしい暮らし』とした。覚えやすく単純明快な言葉に、これから取り組むべき多くの課題や目標を込めて、施設内掲示・業務書類掲載・申し送り時の唱和等、周知徹底をはかり、さらなるレベルアップのための指針としている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出等で積極的に地域に出かけている。ご近所におられる利用者様の知り合いの方も時折ホームに訪問されお話しが聞かれている。地域開催の祭り見学や、毎年お祭の際は地域の子供会の神輿、獅子舞等がお立ち寄りしてくれる。	町会に入会しており、町や地区行事にも積極参加している。また散歩時の近所の方々との挨拶やお福分けを頂くなど、普段の暮らしにおいても親しいお付き合いがある。今後はさらに地域の方々をホームに取り込み理解を深めて頂く方向を模索している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の夏休み福祉課題の見学、高校福祉課の実習生の受け入れ、そくさい会(地域の高齢者の活動)に参加し、認知症についての説明や地域で認知症を支えることへの説明等を行った。地域で講師等を依頼された場合は積極的に参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	法人理事長、管理者、職員、家族、志賀町職員、時には、民生委員、消防署員に参加して頂き1回/2ヶ月、運営推進会議を実施している。会議での意見を反映し、外出の機会を増やすなどの対応を行った。	会議場所は地域とのつながりで集会所を借用させて頂いている。事業報告を主に、議題によっては民生委員や消防署など関係機関を招聘し、議論を密に2ヶ月毎に開催。法人代表も常席しており、ホームとしての回答や意向を即対応できるようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場主催で地域のグループホーム会議に出席、必要時は随時、市町村担当者や相談や連絡を行っている。	地域のグループホーム会議開催は、同地域のホームが集まり共に実情理解や問題解決が必要と、当ホームが役場に要望したもの。運営推進会議参加及び議事録提出等の定期的な交流をはじめ、随時、相談や連携がとれる協力関係が構築されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止の宣言をしており、身体拘束は行ってない。施錠は夜間のみの実施となっており、利用者の方が外の様子を確認できるようにしている。	身体拘束をしない方針は、法人自体として毎年研修会を実施し、都度、言葉による拘束禁止も含めその方針が徹底周知されている。出て行く利用者がいても、そと後方からの見守りや付添いをし、適時に声かけ対応しているなど、方針は実践されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する法人での勉強会に参加した。利用者の尊厳に配慮したケアを行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に入所されてから成年後見制度を活用された実績がある。ホーム入口に成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを配置し、ご家族等に周知を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際にはグループホームの趣旨をご理解頂くよう努めている。生活状況や発生されると思われる事柄、対応を事前に話し合い、納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等は日常の生活支援の中で把握し、ご家族からの要望を会議で検討している。表現の困難の方は表情やしぐさ等から意向を汲み取るよう配慮している。	家族会はないが、利用者の面会時に意見や要望を伺ったり、遠方にお住まいや交信の少ないご家族には電話やホーム便りを送付し利用者の近況を報告するよう心がけている。今後は無記名アンケートの実施など、より積極的なアプローチを検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時等に話し合いの時間を設け、職員の意見や提案を取り入れるよう努めている。出来るだけ、運営にも反映させている。	月1回の職員会議で日常業務や行事運営を協議している。議事次第では、あえて管理者が不在となり職員同士が話しやすい環境を作っている。それまで法人全体行事だったクリスマス会を施設単独開催にしたなど、職員の意見や提案は反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績など自己向上心を持っての取り組みなどを把握され、昇給の対象となっている。夜勤に従事する方は2回/年、健康診断を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を受ける機会を設けている。法人にて1回/月、勉強会を実施しており、参加するよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場主催のグループホーム同士の会議に出席している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にホームに訪問していただき、雰囲気を感じて頂けるようにしている。又、サービス利用時は本人の希望・意向を把握するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用時はご家族の要望や意向等も確認している。困っている事、不安なことを気軽にいってもらえるような関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に職員が訪問し、ご本人、ご家族の状況に応じたサービスを提供するよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし、共に何が出来るかを考え、「その人らしい暮らし」や自発的行動が行えるようなさりげない支援を行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状況やご家族の今までの大変さに配慮し、事業所のできる事、ご家族のできる事、共に行っていきたい内容などを検討している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の親戚に会いたい等の要望等に答えている。入居前からの馴染みの人・場所等、関係の継続に配慮している。	入居時に利用者本人や家族から得た生活歴にて、美容院の利用や近隣の親戚への訪問、墓参りなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。今後は普段の会話等で新たに知り得た馴染み情報にも配慮し支援して行く方針である。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後等に利用者の方同士・職員で談笑している場面がよく見られる。一人ひとりが孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に帰られた方、入院されて退居された方の経過のフォロー、今後の相談等についての支援を行っている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の訴え、表情や行動などから生まれ育った地に向く等、思いや意向を把握するよう努めている。生活歴などを考慮し、「その人らしい暮らし」に結びつけるよう検討している。	現在の思いや意向の把握は、日々の暮らしの中からの具体的な何をしたいか何をして欲しいのかを汲み取る「個別支援目標」を計画化し実践しているが、より一層本人本位のケアサービスになるよう、現システムのさらなる改良改善を検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関係者から生活歴や本人が出来る事等をサービス利用前にお伺いして、その方らしい生活が出来るよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方への目配り気配りを行い、何を求めどうして欲しいかを共感し、さりげない支援の中から自主的行動へ繋げられるよう現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを反映でき、さりげない支援が出来るよう、ご家族様などに確認を取り、職員全員で考え実践できるよう計画を作成している。	毎月の職員会議で、「ケアプラン」と「個別支援目標」に添って実践されている「介護経過記録」と担当者の「モニタリング」で、現計画の現実性を協議をしている。計画自体の見直しは原則6ヶ月毎だが、家族の意向や状況変化によっては随時対応している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の表情や様子、対応面等を記録している。職員間で情報共有を行い、ケアの実践や気づきを計画作成に活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出前にホーム内でご家族と共にお食事をして過ごした後に外出できるよう支援している。ご家族との時間を大切に出来るよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で消防署員に参加して頂く		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	状態に応じて本人・家族希望のかかりつけ医を確認している。原則、ご家族様に受診をお願いしているが、緊急時や移動助助が困難な場合等はホームで送迎を行っている。	主治医を経営母体の協力医療機関にするのか従来のかかりつけ医にするのかは、本人と家族の意向で決まり、それぞれに応じて受診支援している。協力医療機関とは、定期受診や緊急時の対応等、連携体制が構築されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師がホームに配置されており、健康管理や医療面を相談して対応している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の普段の状況などを伝え、対応方針を病院関係者と共に話し合い、ご本人・ご家族に負担のないよう支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合等は随時、その時の状況や対応等について本人・ご家族等と検討している。終末期は事例がなく、その際は同一法人の老健にて対応をおこなっている現状である。	利用者が重度化になった場合は、その時の本人の状況・症状の変化に応じて、本人や家族にホームとしてできる事と困難な場合等の説明を十分におこない、ご理解を頂いたうえで、主治医や協力医療機関との連携のもと、系列の老人保健施設にて対応して頂く方針である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前に消防の救急救命の上級コースを受講しているが、今後も継続的な受講が必要だと感じている。又、定期的な訓練も今後行っていきたい。		
35	(13)	緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時マニュアルがあり、損害賠償保険にも加入している。緊急時の連絡先(法人医師、ホーム看護師、責任者)をわかりやすいところに掲示している。	それぞれの症例ごとの緊急時対応マニュアルを作成し、職員室のいつでも目の届く場所に保管して、ミーティングや研修会等で職員に周知し、定期的に見直しをしている。緊急連絡網も目につく場所に掲示している。救急救命等の訓練も毎年実施して、全職員が緊急時に対応できる体制を整えている。また、損害賠償保険に加入し、賠償への手段も講じられていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	同一法人に診療所、介護老人保健施設、別のグループホームがあり、支援体制が確保されている。	事業主体法人のグループに、診療所や介護老人保健施設があり、行事等を通して日常的に交流があり、緊急時や災害時等の支援体制は確保されている。また、地域の集会所も災害時の避難先として連携がある。	
37	(15)	夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	緊急時は緊急連絡網にて法人の医師、責任者、看護師等に連絡している。近隣職員が応援に来てくれる体制となっている。	各ユニット毎に夜勤者が1名おり、緊急時には協力体制がある。また、2～3人の職員が歩いて5分の近くに住んでいることと、管理者とは24時間連絡がとれるので、必要あれば駆けつけ応援できる体制になっている。法人の医師、看護師とも24時間連携可能な体制となっている。	
38	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の防火訓練は年2回行っており、避難場所は地域の集会所となっている。今後は風水害、地震等も想定した定期訓練が必要であると考えている。	防火設備や電気設備(コンセント等)は定期的に点検しており、スプリンクラーも2月に設置される。防火訓練は、年2回定期的に実施しているが、地域住民の参加は得られていない。	今後、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民や警察署、消防署等との連携を図りながら、ホームの災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いていくことを期待したい。
39	(17)	災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	リストに基づいた備蓄を整備する方向で検討している。	災害時対応マニュアルや緊急時の連絡体制を整備し、職員に周知して、定期的に見直しをしている。リストに基づいた備蓄については、今後整備する方向で検討中である。	今後ホームとして、リストに基づいた飲料水、食料、医薬品、ラジオ等の備蓄と、定期的な点検が求められる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、排泄時等はさりげない言葉かけや対応を心掛けている。ご本人のいやがる事は他者へ話さないよう常に念頭に置いて支援している。	職員全員で利用者のプライバシーに配慮した言葉かけ等を心がけているが、時として(訪問中に)馴れ合いの言葉遣いになったりする事がある。個人記録などプライバシーに関わる書類は、事務室に保管してある。	今後、尊厳を大切にしたい対応や言葉遣い等について職員で話し合う機会を持つなど、さらなる周知・徹底を期待したい。
41		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から静・動・交わり・楽しみなどを考慮している。身体状況を踏まえ、本人が納得された上で、掃除などの役割、達成感を見出すよう努めている。		
42		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の行動・表情・話の中からご本人らしく生活できるよう散歩や家庭内で出来る事など気分転換できるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の望む理髪店や美容院に出かけられるよう支援している。必要時には送迎も行っている。		
44	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意な事や出来ること(野菜の皮むきや洗い物など)等、調理やお菓子作りの一連の作業を共同で行っている。時には、誕生日に食べたい物を食べ利用者の方と共に食事し会話も楽しんでいる。	献立は事業主体法人の管理栄養士がたて、材料は運ばれて調理はホームで行っている。調理から片づけまでの一連の作業の中で、野菜の皮むきや洗い物など、利用者の得意なことや出来る範囲で、職員と一緒に取り組んでいる。職員も同じテーブルを囲んで同じものを食べ、会話しながら共に食事を楽しんでいた。	
45		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士と利用者の好みや栄養バランス・メニューについて相談している。本人の力を活かした支援を行い、水分、食事量についてもチェック表を用い確認している。		
46		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯や口腔内の状況を確認しわかりやすい助言で口腔ケアを支援している。状況に応じて介助にて口腔内を洗浄している。		
47	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い状態を確認している。プライバシーに配慮し、必要物品、大きさ、状態を確認してさりげない支援を心掛けている。ご本人への思いも考えた支援を行っている。	個々の排泄パターンは、排泄チェック表を活用して把握し、タイミングをみてさりげなくトイレ誘導したり、利用者の様子を見て、プライバシーに配慮しながら個々に応じた支援をしている。失敗した時も、本人を指摘しないよう、トイレで交換している。オムツやパットの使用に関しては、ミーティング等で十分話し合い、利用者本人や家族に相談しながら支援している。	
48		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	資料を確認し便秘気味の方には水分量を調整している。出来るだけ散歩や掃除など体を動かすように努めている。		
49	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる状況を確保するよう支援している。入浴を拒む方には、原因・要因を職員で検討し、本人の様子を見て再度声かけする等の配慮をおこなっている。	入浴日は特に決めてなく、一人ひとりの希望にそっていつでも入浴できるよう、土・日曜日以外の毎日沸かして支援している。入浴があまり好きでない方には、原因や要因を職員で話し合っ、日を変更したり、言葉かけを工夫して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状況や状態を確認し、必要に応じて休息を取るようになっている。		
51		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備、服薬介助、バイタルチェックを職員側で行い、症状の変化を確認しながら支援している。		
52		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭内仕事で体を動かしたい方、座って軽作業をしたい方、さみしがりでそばにいてお話ししてほしい方等、一人ひとりに応じた支援や楽しみ・満足感を大切にしている。		
53	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や思いが叶えられるような外出に努めている。車椅子で自走困難な方でも戸外へ出て四季を感じれるよう配慮している。その際は大変喜ばれ歩行意欲へと繋がっている方もおいてる。	「個別支援目標」等を活用して、散歩や買い物、馴染みの理美容院など、一人ひとりの希望や思いが叶えられるような外出支援に努めている。車椅子の方も、戸外で四季を感じ気分転換に配慮して外出支援している。また、誕生日の自宅での食事会など、家族の協力も得ながら取り組んでいる。	
54		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力に応じて、又、ご家族の了解を得てお金を所持し、買い物・外出時等に使用している。		
55		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気になる事や連絡をご本人より電話していただいている。字を書けない方でも職員が代書して大切な方々との繋がりを継続できるようにしている。		
56	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩に出かけた時に道端に咲いていた花をリビングに飾ったり、季節の物を採取・細工して飾っている。家庭的なテーブルや椅子、畳コーナー、ソファを設置し、利用者が居心地よく過ごせる様な空間となっている。	リビングには、季節の花を飾ったり、畳スペースには仏壇があり利用者がお参りしたり、のんびりテレビを見たりくつろげるようになっている。台所、食堂も家庭的な調度品を使用したり、浴室やトイレにも手すりがつけられ、自宅の延長として居心地よく安心して過ごせる空間になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後に利用者様同士や職員も混じり談笑される等、居心地よい共用空間となっている。ホーム前にベンチを設置し、一人になりたい方等はよく活用されている。		
58	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人にとって安心した居心地よい居室となるよう、馴染みの物や写真等を持ってきていただけるよう家族に働きかけを行っている。	ベッドと整理棚が備え付けられた居室には、家族の写真や利用者の手づくり作品を飾った居室もあったが、入居年数が長いのに、個性的な居室は少なかった。	職員は、家族に対して、利用者の馴染みの物品の持込を働きかけているとのことであるが、今後も、その人らしい居室作りに向けて、継続的に家族等への働きかけを期待したい。
59		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今まで行ってきた生活と同じように自発的行動が自然に行えるよう、さりげない見守りや相談援助を心がけている。		